

【案】

岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン

～「生き抜く力と創造力、知的好奇心溢れる心豊かなひとづくり」を目指して～



はじめに

急速に進行している人口減少や少子高齢化、超スマート社会の実現や人工知能（AI）などの技術革新やグローバル化の進展、また子どもの貧困など様々な問題や事象が顕在化しています。

このような予測困難な変化の激しい社会環境の中で、子どもたちがこれからの未来を生き抜く力の育成し、将来に夢と希望が描ける人材の育成に向けて、学校教育の果たす役割はますます重要となっています。

本市では、岡谷市教育大綱掲げる『自立し、共生し、創造性溢れる岡谷のひとづくり』の教育理念のもと、学校教育スローガンを「生き抜く力と創造力、知的好奇心溢れる心豊かなひとづくり」とし、様々な施策展開による岡谷を担うひとづくりを推進しています。

新岡谷市教育大綱においても、これまでの教育理念及び学校教育スローガンを継承し、学校・家庭・地域が連携し、行政との協働による学校教育を推進してまいります。

さらに、新たな教育課題や教育ニーズに適切に対応するための学校支援や、学校教育に対する市民の期待に応えるため「岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン」を策定し、一層の学校教育の充実に努めてまいります。

平成30年 月

岡谷市教育長 岩本博行

岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン【目次】

第1	教育理念・スローガン（めざす教育の姿）	1
第2	プランの概要	1
1	プラン策定の趣旨	1
2	プランの目的	2
3	プランの期間	2
第3	学校教育の現状と課題	2
1	人口減少・高齢化社会の進展	2
2	急激な技術革新とグローバル社会への対応	2
3	貧困・格差など社会経済的な課題への対応	2
4	生き抜く力を育み、支える教育環境づくり	3
5	郷土を愛する心の醸成	3
6	安全安心な教育環境の整備	3
7	特別支援教育の充実、人権教育の推進	3
8	地域のつながりの醸成	4
9	ライフスタイルや価値観の変化	4
10	教師の負担	4
第4	重点項目と施策展開	5
	【重点項目1】 未来を切り拓く確かな学力の定着	5
	施策1 基礎・基本の学力の定着と思考力・判断力・表現力 及び学力に向かう力の醸成	5
	施策2 グローバル社会に対応する人材の育成	6
	施策3 ICTを活用した学習の研究・実践	7
	【重点項目2】 地域に根ざしたふるさと学習の推進	8
	施策1 岡谷スタンダードカリキュラムの推進	8
	施策2 地域に開かれた学校づくりの推進	9
	施策3 家庭教育の支援	9
	【重点項目3】 自立と共生につながる豊かな心を育む教育活動の充実	10
	施策1 人権教育・道徳教育の充実	10
	施策2 特別支援教育の推進	10
	施策3 困難な悩みを抱える児童生徒への支援	11
	施策4 高等学校以上の教育との連携	11
	施策5 健康教育の推進と体力向上	12
	【重点項目4】 笑顔で安心して学べる教育環境の整備	13
	施策1 安全・安心の教育	13

第5 基本計画 前期5ヵ年（2019年度～2023年度）	14
1 施策展開一覧	14
2 特に重点とする取組	15
3 施策展開の取組内容	16
(1) 未来を切り拓く確かな学力の定着	16
○現状と課題	16
○目指す方向性と主な施策展開	16
施策1 基礎・基本の学力の定着と思考力・判断力・表現力 及び学力に向かう力の醸成	16
施策2 グローバル社会に対応する人材の育成	18
施策3 ICTを活用した学習の研究・実践	19
○目標指標（KPI）	19
(2) 地域に根ざしたふるさと学習の推進	20
○現状と課題	20
○目指す方向性と主な施策展開	20
施策1 岡谷スタンダードカリキュラムの推進	20
施策2 地域に開かれた学校づくりの推進	21
施策3 家庭教育の支援	22
○目標指標（KPI）	22
(3) 自立と共生につながる豊かな心を育む教育活動の充実	23
○現状と課題	23
○目指す方向性と主な施策展開	23
施策1 人権教育・道徳教育の充実	23
施策2 特別支援教育の推進	24
施策3 困難な悩みを抱える児童生徒への支援	25
施策4 高等学校以上の教育との連携	26
施策5 健康教育の推進と体力向上	26
○目標指標（KPI）	27
(4) 笑顔で安心して学べる教育環境の整備	28
○現状と課題	28
○目指す方向性と主な施策展開	28
施策1 安全・安心の教育	28
○目標指標（KPI）	28
4 プランの推進体制と進行管理	29
(1) 推進体制	29
(2) 進行管理	29
(3) 計画の見直し	29

岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン

第1 教育理念・スローガン（めざす教育の姿）

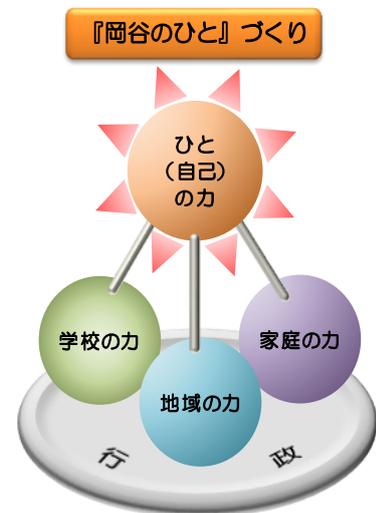
岡谷市「教育理念」

自立し、共生し、創造性溢れる『岡谷のひと』づくり

（めざす教育の姿）

岡谷のひとづくりは、学校の力、家庭の力、地域の力を集結させ、行政との協働による取組により、子どもたちが主体的に学びながら、自己肯定感や自己有用感を醸成し、他者を尊重できるひと（自己）の力を育みます。

- 未来を切り拓き、夢を実現するための確かな学びと成長を補償します。
- 地域に根ざす『ひと、もの、こと、こころ』の資源を活用しながら、郷土を愛する心を醸成し、未来を切り拓く力を養います。
- 生涯を通じて学び続け、スポーツに親しむ環境づくりを進めます。



『学校教育スローガン』

生き抜く力と創造力、知的好奇心溢れる心豊かなひとづくり

第2 プランの概要

1 プラン策定の趣旨

岡谷市及び岡谷市教育委員会では、平成27年12月に岡谷市総合計画に掲げる基本目標の実現に向けて、平成30年度までの4年間の軸となる「教育の理念」を掲げ、「めざす教育の姿」のもと教育を推進するための基本となる方向性を示した「岡谷市教育大綱」を策定しました。

この教育大綱に基づき、学校教育分野のスローガンを掲げ、各年度に取り組むべき重点項目を設定し、目標達成に向けた対応をしてきたところです。

しかし、昨年長野県が公表した「人口異動調査」では、市町村ごとの状況・分析が掲載され、それによると岡谷市は今の15歳児を100とした場合の0歳児の指数は

70とされており、これまで経験した事のない少子・人口減社会を迎えることが明白となっています。また、子どもたちを取り巻く環境は刻々と変化しており、長期欠席・いじめ問題への対応や学力向上に向けた一層の充実、特別支援教育の充実、安全確保への対応、学校施設の長寿命化への対応など、さらなる取り組みが求められています。

こうした学校教育環境の変化に迅速かつ適切に対応し、学校教育に対する市民の期待に応え『魅力と活力ある学校づくり』を推進するため本プランを策定します。

2 プランの目的

このプランは、岡谷市教育大綱の基本方針に掲げる重点項目を着実に実現するための計画として策定し、施策や事務事業を推進するもので、計画の進捗状況や環境等の変化を踏まえ必要に応じて見直すことにより実効性の高い計画として、岡谷市の未来を担うひとづくりの実現を目指すことを目的としています。

3 プランの期間

本プランは、2019年度を初年度とし、2028年度までの10年間を計画期間とし、上位計画である岡谷市総合計画や岡谷市教育大綱との整合を図ることとします。

また、長期的な視点を踏まえ、概ね5年を計画期間とする実施計画を策定し、市の財政状況や国の制度改正等の変化を踏まえ見直しを行います。

第3 学校教育の現状と課題

1 人口減少・高齢化社会の進展

- 人口減少や児童生徒数の減少が見込まれる中での教育は、子どもたちの集団での学びや社会性の醸成などに影響するほか、支える側の人材確保、教育の質の維持にも影響を及ぼします。人口減少社会にあっても、未来を担う子どもたちが健やかに育つために、確かな学びと豊かな心の成長を保障する教育環境を提供する必要があります。

2 急激な技術革新とグローバル社会への対応

- 情報化やネットワーク化が進む社会を生き抜く子どもたちには、英語教育をはじめ国際感覚豊かな資質と能力が求められています。未来の岡谷を支える子どもたちへの英語教育の充実を図るほか、ICT教育や情報モラル教育を通じて、国際化社会、情報化社会に対応できる力を育む必要があります。

3 貧困・格差など社会経済的な課題への対応

- 厳しい社会・雇用情勢、日本型雇用慣行の変容の中で、生活困窮者の増加や社会・経済的格差の拡大が進んでいます。経済的理由や家庭環境等による進学や学力等が、その後の就労・所得等の格差にもつながり、特に若者への影響は大きく、精神的・社会的自立の遅れも指摘されています。経済的・時間的な制約にかかわ

らす、学ぶ意識のある人誰もが必要な教育の機会を得ることができる環境整備が必要となっています。

4 生き抜く力を育み、支える教育環境づくり

- 子どもたちの生き抜く力を育むため、「特別の教科 道徳」の実施により、答えが一つではない道徳的課題を一人ひとりの児童生徒が自分自身の問題として捉え向きあうことが求められています。また、子どもたちが夢と希望を持って成長できる社会の実現をめざして、経済的な制約等によらない教育機会の提供、子どもの成長期に合わせた支援・相談体制を充実する必要があります。
- 急速かつ激しい変化が進行する現代の社会を、一人ひとりが主体的・創造的に生き抜いていくために、教育に求められているものは、子ども達に基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動しよりよく問題を解決する資質や能力、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力など「生きる力」を育んでいくことです。

5 郷土を愛する心の醸成

- ひとやまちの資源を最大限活用しながら、地域に学び、郷土を大切に思う、岡谷ならではの子どもを育てることは、今に生きている私たちの大切な役割です。歴史ある郷土を愛する心の醸成を通じて「ものづくり岡谷」の精神を引き継ぎ、まちの未来を支える人材を育てる必要があります。
- 郷土を愛する心を養うとともに、ふるさと岡谷で身につけた力を携え、世界に羽ばたこうとする心を培うことが求められています。

6 安全安心な教育環境の整備

- 恵まれた自然と共存する私たちにとって、自然災害に備えた、災害に強いまちづくりは市民共通の願いです。教育においても安全・安心の環境づくりを推進し、自分の命は自分で守ることができる防災教育の推進が必要となっています。
- 小中学校の学校施設は、建築後 30 年以上が経過しているものが多く、劣化度も進んでいる状況にあります。建築年度、施設の劣化度等の安全性を勘案し、学校施設等の長寿命化に向けた取り組みを推進し、学校環境の向上を図る必要があります。

7 特別支援教育の充実、人権教育の推進

- 共生社会の形成に向け、障がいのある子どもとない子どもが学校生活の中で一緒に教育を受けることができる環境づくりが求められています。また、いじめ防止対策を更に推進するため、市と市教育委員会は、平成 27 年 5 月、「いじめ

防止等に関する基本方針」を策定しました。人を思いやる心、仲間と支え合う人間関係力を育みながら、自立と共生による教育の推進が求められています。

8 地域のつながりの醸成

- 少子化、核家族化が進んでいますが、学校、地域社会の中で、子どもたちが様々な世代と交流し、人生の糧となる体験を重ねることが大切です。学校を軸に家庭、地域との連携を進め、人々のつながりによって子どもたちの成長と学び支えることのできる、地域コミュニティの醸成が求められています。

9 ライフスタイルや価値観の変化

- 少子化、核家族化が進んでおり、一人ひとりのライフスタイルや価値観も変化し、多様化しています。刻々と変化する教育ニーズを的確に捉え、幼児期からの各世代が生涯にわたって楽しみながら自己研鑽を続けられるよう、文化的な学習や健康的なスポーツの機会の充実が求められています。

10 教師の負担

- 学校に求められる役割が増大し、時間外勤務の増加が深刻な状況となっており、教師の負担軽減が大きな課題となっています。学校と教師が担うべき業務を明確にし、教師が子どもと向き合う時間の確保が求められています。

第4 重点項目と施策展開

【重点項目1】 未来を切り拓く確かな学力の定着

急激な社会変化やグローバル社会に向けて、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、複雑・多様化する社会に対応するための「学びに向かう力」、「知識・技能を活用する力」、「思考力・判断力・表現力」、「コミュニケーション能力」等の育成を図ります。

施策1 基礎・基本の学力の定着と思考力・判断力・表現力及び学びに向かう力の醸成

施策の方針

◇主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善への取り組みやカリキュラムマネジメントの確立を図り、新しい時代に求められる資質・能力の育成に向け、子ども達の基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力及び学習に向かう力の醸成を図ります。

□細施策1 学力向上の推進

○「チーム岡谷による学力向上推進事業」に基づき、主任指導主事（学力向上専門官）及び学力向上アドバイザーを中心に、学力状況調査や標準学力検査などの結果分析による課題を踏まえ、学校への助言や指導を行い、教育課程、学習指導、生徒指導、教材、学校の組織編制など専門的な支援体制を整備します。

□細施策2 授業改善への取組

○社会のあり方を見据えた育成すべき資質・能力として「何を理解しているか、何ができるか」「理解していること、できることをどう使うか」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」の3つの柱を確実に育成するため、新学習指導要領の着実な実施により、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善をするとともに、カリキュラムマネジメントの確立を図ります。

□細施策3 教職員の資質向上

○子どもたち一人ひとりの状況に応じた、質の高い教育の提供に向けたきめ細かな指導の充実を図るため、教職員が自らの指導力向上に取り組みます。

○教職員が子どもと向き合う時間を確保するため、学校サポート体制の充実を図ります。

□細施策4 理数教育の充実

○ものづくりのまち岡谷を担う人材育成に向け、その基礎・基本となる理数教育の充実を図るため、理科の観察・実験活動に対する外部人材を活用した授業支援や、教職員を対象とした理数教育の指導力向上に向けた特別講師による研修会等を実施し、理数好きな子どもの育成を図ります。

□細施策5 小中学校の連携・接続・交流

○小中一貫教育の目指すべき目的が果たせるよう、小学生が中学校の生活体験をするOEEを中心に、教職員の授業参観、合同職員会議の開催、学力向上に向けた取り組みを行うなど、小中連携・接続・交流の充実を図ります。

□細施策6 幼保小中の連携

○幼児期の教育がその後の学力や運動能力に与える影響、また大人になってからの生活への影響を与えることから、幼児期から質の高い教育を提供することの重要性が高まっており、幼保小中の連携した教育活動の充実に努めます。

□細施策7 家庭学習への支援

○家庭学習の定着は、子どもの主体的や自立性を伸ばし、将来の夢や目標をもって生きる力を育む大切な取り組みであり、学校と家庭が連携し、家庭学習の習慣化を目指します。

□細施策8 学校図書館の活性化

○読解力の向上、言語活動の充実など、子どもの読書活動の重要性を踏まえ、授業における学校図書館の活用拡大を図るとともに、学校図書館の整備充実や市立図書館との連携により、学校図書館の活性化を図ります。

施策2 グローバル社会に対応する人材の育成

施策の方針

◇伝統と文化を尊重し、それらを育んできたわが国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度や、豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等を身につけて、様々な分野でグローバルに活躍できる人材を育成します。

□細施策1 外国語（英語）教育の充実

○外国語教育の小学校中学年での導入や高学年での教科化をはじめとし、コミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指し、外国語教育の更なる改善・充実を図る新学習指導要領の着実な実施のための教員研修の充実や外国語指導助手（ALT）の配置等、学校の指導体制を強化します。

○国際交流センターや高等学校と連携した授業実践や学校行事についても研修を進めます。

□細施策2 国際理解教育の推進

○日本の伝統文化を十分に理解し、そのすばらしさを誇りに思うと同時に、国際化の急速な進展に対応するため、広い視野を持ち異文化を理解するとともに、これを尊重する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていく資質や能力の育成を図ります。

施策3 ICTを活用した学習の研究・実践

施策の方針

◇小中学校段階で、必要な情報を収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力（情報活用能力）の育成を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に向けた各教科の指導におけるICTの活用を推進します。

□細施策1 情報教育の充実

○新学習指導要領において、情報活用能力（情報モラル含む。）が学習の基盤となる資質・能力に位置づけられたことを踏まえ、その育成に係るカリキュラムマネジメントを創造し、その普及を図ります。

○情報モラルの育成について、指導資料や啓発資料の作成などを通じて推進するとともに、プログラミング教育の推進を目的とした教員の指導力向上を図ります。

□細施策2 学校ICT環境の充実

○これからのIoT, AI等の革新的技術が普及する時代を生き抜くためには、情報活用能力が重要視されています。さらに新学習指導要領への対応に伴い、積極的にICT活用されることが想定されるため、学校ICTや教材の計画的な整備充実に努めます。

【重点項目2】 地域に根ざしたふるさと学習の推進

ものづくりに代表される、ふるさと「岡谷」の様々な地域資源を活かした、岡谷ならではの学習を地域と共に推進し、岡谷の『ひと・もの・こと・ところ』に誇りと自信を持ち、郷土を愛する心を醸成します。また、将来の夢や希望が掛け郷土を担う子どもの育成に向けたキャリア教育の推進を図ります。

施策1 岡谷スタンダードカリキュラムの推進

施策の方針

◇ふるさと岡谷の豊富な学習素材を活用した、岡谷ならではの普遍的な学習カリキュラムである「岡谷スタンダードカリキュラム」をさらに発展充実させることにより、岡谷に学び、育つ子どもたちが郷土を誇りに思い、郷土を愛する心とふるさと回帰の心を育む教育の推進を図ります。

□細施策1 岡谷の「ひと・もの・こと・ところ」に学ぶふるさと学習の推進

○地域資源を活用した岡谷ならではの学習カリキュラムである「岡谷スタンダードカリキュラム」をベースとしたカリキュラムマネジメントの実践により、岡谷の「ひと・もの・こと・ところ」の良さを実感し、それらの学びが支えとなり、自分らしさを発揮し、主体的に課題を解決できる力の育成に努めます。

□細施策2 ものづくり体験学習の充実

○ものづくりのまち岡谷の特色を活かした、ロボット製作やプログラミングなどの様々な体験学習の実践を推進します。

○専門性を活かした企業や高等学校の人材を活用した授業展開を推進することにより、ふるさと回帰の心を育む教育の推進に努めます。

□細施策3 郷土を愛する心の醸成

○地域の伝統・文化を学び、伝統行事等に積極的に参画することによりふるさとの良さを再認識し、地域社会の活性化に貢献できる人材の育成に努めます。

□細施策4 キャリア教育の推進

○児童生徒が岡谷スタンダードカリキュラムに位置づけるふるさと岡谷の「ひと・もの・こと・ところ」に学ぶ学習カリキュラムにおいて、それぞれの発達段階に応じた進路選択に対し目的意識を持った学習に取り組み、社会的・職業的自立に必要な能力・態度の育成を図ります。

施策2 地域に開かれた学校づくりの推進

施策の方針

- ◇地域に開かれた信頼される学校づくりを推進するため、各校におけるコミュニティスクールを中心に、学校と地域が連携、協働し、保護者や地域住民の意見や要望を把握するとともに、積極的に学校経営へ参画できる体制整備を進めます。
- ◇各学校での魅力ある学校づくりに、地域の持つ力を活用することで、家庭や地域の教育力の向上を図ります。

□細施策1 岡谷版コミュニティスクールの推進

- 地域住民や地元企業などとの連携により、学校支援活動（放課後の教育活動、土曜日を活用した授業や体験活動、防災防犯の避難訓練等）の実施により、地域との連携・協働体制づくりを推進します。

□細施策2 地域の人材資源の活用

- ものづくりのまち岡谷の特徴を活かし、地域や外部人材を活用した幅広い教育活動を推進します。

□細施策3 魅力ある学校づくりの充実

- 各学校で積極的に取り組みを進めている、特色ある総合的な学習の時間への支援の充実により、更なる魅力ある学校づくりを推進します。

□細施策4 地域貢献活動への参加

- 児童生徒が、自ら考え行動し、社会貢献活動や地域の行事に参加することで、社会的資質や行動力を高め、規範意識の醸成を図ります。

施策3 家庭教育の支援

施策の方針

- ◇家庭は、家族とのふれあいを通じて子ども達が生きていくうえでの基礎的な資質や能力を養うすべての教育の出発点であり、家庭・学校・地域が連携した家庭教育支援が必要となっていることを踏まえ、支援体制の整備や組織づくりを推進します。

□細施策1 地域との連携による家庭支援の充実

- 学校・家庭・地域が連携協力し、地域住民等の参画により子ども達の安全で安心して活動ができる居場所を確保し、学習支援や様々な体験・交流活動を提供するなど、家庭支援の充実に努めます。

□細施策2 地域の教育力の向上

- 保護者等への家庭教育に関する情報の提供や、家庭教育支援チームなどの組織体制の整備による相談対応、保護者への学習機会や親子交流行事の企画・提供など全ての保護者が安心して家庭教育が行うことができるよう、地域の教育力の向上に努めます。

【重点項目3】 自立と共生につながる豊かな心を育む教育活動の充実

自立と共生につながる豊かな心を育むため、自他の生命の尊重、自己肯定感、他者への思いやりや困難を乗り越える力の育成を図ります。また、発達障がい等様々な支援が必要な児童生徒の教育的ニーズに対応するため、子ども総合相談センターの充実を図り、チームで支援する体制整備に努めます。

施策1 人権教育・道徳教育の充実

施策の方針

◇子どもたちの豊かな情操や道徳心を培い、正義感、責任感、規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感、他者への思いやり、人間関係を築く力、社会性、個人の価値を尊重し、男女の平等を重んじる態度、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度、前向きに挑戦しやり遂げる力などを養います。

□細施策1 人権教育の推進・いじめ防止対策

○児童生徒のそれぞれの発達段階に応じ、各教科、道徳、特別活動等において一人ひとりの人権意識を醸成する取り組みを推進します。

○「岡谷市いじめ防止等のための基本方針」に基づき、いじめはどの子、どの学校にも起こりうるという認識のもと、未然防止、早期発見、早期対応を柱に、市及び教育委員会、学校、家庭、地域が連携し「チーム」体制で取り組みます。

□細施策2 道徳教育の推進

○「特別の教科道徳」の実施により、答えが一つではない道徳的な課題が一人ひとりの児童生徒が自分自身の課題と捉えて向き合う「考え議論する道徳」への転換を図ります。

□細施策3 長期欠席問題への対応

○子ども総合相談センターを中心に、関係課との連携を強化し、それぞれの立場を生かした相談支援を行い、様々な教育・家庭環境等の課題解決に向け、チーム支援により、子どもの育ちを支えます。

施策2 特別支援教育の充実

施策の方針

◇障害のある子どもの自立と社会参加に向けた、主体的な取り組みを支援する視点から、障害のある子どもと障害のない子どもが可能な限り共に十分な教育を受けられるよう、一人ひとりの教育的ニーズに応じた多様で柔軟な仕組みづくりを推進します。また、学校の教育活動を通じた障害者理解に関する学習や交流及び共同学習の一層の推進に努めます。

□細施策1 課題の早期発見・早期対応への取組

○子ども総合相談センターを中心に、スクールクラスター体制（地域の教育資源の組合せ）のもとで、コーディネーター機能を十分発揮し、通常学級における指導支援や教職員の専門性向上に努めます。また、関係課による子育て支援連絡会議を立上げ、早期から就学後までの一貫した支援、丁寧な就学教育相談、総合的な視点による就学判断に努めます。

□細施策2 インクルーシブ教育の充実

○これまで、地域の様々な資源を有機的かつ効果的に結びつけ、障害のある子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援体制の構築を図ってきており、この成果を活かし、基礎的環境整備に充実、個に合わせた合理的配慮の提供を行います。

□細施策3 授業のユニバーサルデザイン化の推進

○授業づくりや学級経営には、特別支援教育の視点から、ユニバーサルデザイン化を取り入れ、発達障害等のある児童生徒が学びやすい教育環境や指導方法を工夫改善できるよう、教職員研修や推進体制の充実を図ります。

施策3 困難な悩みを抱える児童生徒への支援

施策の方針

◇家庭の経済的な事情にかかわらず、進学等を断念することなく、未来に希望を持ち、それぞれの夢に向かって歩み続けることができるよう、経済的負担の軽減や適切な教育機会の確保に努めます。また、近年増加傾向にある外国籍の児童生徒に対する支援体制の整備を図ります。

□細施策1 子どもの貧困対策

○日常生活の中で、地域の大人と子どもたちがあたたかなつながりの中で、困難を乗り越えて自立する力を養うため、学習支援、食事提供、悩み相談等の複数の機能・役割を持たせ、家庭機能を補完する子ども居場所づくりを推進します。

□細施策2 外国籍児童生徒への支援

○近年、日本語指導が必要な外国人児童生徒等が急増し、あわせて児童生徒の状況も多様化しており、個々の児童生徒のニーズに応じたきめ細かな支援が必要となっています。このため教員の基礎的な知識を習得するための研修機会の充実やサポートするため支援員の配置等、支援体制の推進を図ります。

施策4 高等学校以上の教育との連携

施策の方針

◇市内に3校ある高等学校や高等教育機関、また大学等との連携により、学校教育の充実を図るとともに、それぞれの高等学校が生徒にとって魅力ある学校づくりとなるよう教育内容の充実を図ります。

□細施策1 高等学校・高等教育機関連携の推進

○小中学校における様々な教育活動の中で、地域の高等学校との連携により、学習活動支援、キャリア教育、部活動サポート（合同部活）等、異年齢集団による様々な交流を通じ、児童生徒の個性を伸ばし、優れた才能を早期に発見できるような教育活動の充実を図ります。

□細施策2 奨学金制度の充実

○経済的な理由により、就学が困難な優れた学生に対し、奨学金を貸与することにより、優秀な人材を育成するとともに、多様なニーズに対応できるよう償還免除なども含め制度の充実を図ります。

施策5 健康教育の推進と体力向上

施策の方針

◇多様化・深刻化する子どもの健康課題に対応するため、学校保健に関する教職員の資質・能力の向上や、体育・保健体育などの教科学習を中核とした、学校の教育活動全体を通じた体系的な保健体育の充実を図るとともに、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることにより、生涯にわたってたくましく生きるために必要な健康や体力を育成します。

□細施策1 地域に根ざしたスポーツ体験活動の推進

○地域に根ざした郷土の生活文化であり、スポーツ文化であるスケートを活用し、小学校の体育教科、中学校の部活動に取り入れ、岡谷スタンダードカリキュラムの一つの教材と位置づけ、健康増進、体力向上に加えてふるさと文化の継承を図ります。

□細施策2 健康・食育の推進

○学習指導要領に基づき、各教科等を通じた食育や自校給食による「生きた教材」である学校給食を活用した実践的な指導を推進し、学校栄養士を中心に、家庭、地域や関係機関との連携により食育の充実を図ります。

□細施策3 部活動の活性化

○部活動は、学校教育の一環として教育課程と関連付けて取り組まれる重要な教育活動であり、生徒の自主的、自発的な参加により体力向上はもとより、実践的な思考力・判断力を育むものであり、「岡谷市中学校運動部活あり方指針」に基づき、適正な運用を図ります。

○生徒数の減少による部活動の減少や、学校規模の縮小による顧問数の減少、教職員の負担増（働き方改革）など、様々な課題を踏まえ、今後、各学校がより充実した部活動の環境整備や教職員の負担軽減が図れるよう、家庭、地域、スポーツ団体等とも連携し、部活動の活性化に取り組みます。

【重点項目4】 笑顔で安心して学べる教育環境の整備

安全で安心して学べる質の高い教育環境の充実を図るため、学校施設の老朽化対策を計画的に推進します。また、子どもたちが様々な危機を予測し、自らの安全を自ら守るための能力の育成に努めるとともに、学校安全について、家庭・地域と連携・協働した取組を推進します。

施策1 安全・安心の教育

施策の方針

◇児童生徒が安全で安心な環境下で学ぶため、施設面の整備に加えて、子ども達が自らの安全を守るための能力を身につける安全教育や安全管理、また、家庭・地域・と連携・協働した学校安全の推進に向け、大規模な自然災害、交通事故、犯罪、国民保護等の非常時の対応など安全上の課題に応じた対策の推進に努めます。

□細施策1 防災教育の推進

○災害等に適切に対応する能力の基礎を培うことは、子ども達の生きる力と密接に関連しており、各学校において児童生徒の発達段階に応じ、関連する教科、総合的な学習の時間、特別教科など学校の教育活動全体を通じた防災教育の展開を図ります。

□細施策2 安全体制の充実

○学校は、災害時における児童生徒や教職員の安全確保に万全を期すため、学校防災計画や危機管理マニュアル等の整備に努めます。また、教育委員会は、学校が避難所となった場合も含め、児童生徒の避難方法、教職員の役割分担等のマニュアル作成や適正な見直しを行うとともに、指導や研修、訓練の徹底を図ります。

第5 基本計画 前期5ヵ年（2019年度～2023年度）

1 施策展開一覧

編成	教育大綱重点項目	施策	細施策
第1章 岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン（ソフト整備版）	重点項目1 未来を切り拓く確かな学力の定着	施策1 基礎・基本の学力の定着と思考力・判断力・表現力及び学びに向かう力の醸成	細施策1 学力向上の推進
			細施策2 授業改善への取組
			細施策3 教職員の高質向上
		施策2 グローバル社会に対応する人材の育成	細施策4 理数教育の充実事業
			細施策5 小中学校の連携・交流事業
			細施策6 幼保小中の連携
		施策3 ICTを活用した学習の研究・実践	細施策7 家庭学習への支援
			細施策8 学校図書館の活用化
			細施策1 外国語（英語）教育の充実
	重点項目2 地域に根ざしたふるさと学習の推進	施策1 岡谷スタンダードカリキュラムの推進	細施策1 岡谷の「ひと・もの・こと・こころ」に学ぶふるさと学習の推進
			細施策2 ものづくり体験学習の充実
			細施策3 郷土を愛する心の醸成
			細施策4 キャリア教育の推進
		施策2 地域に開かれた学校づくりの推進	細施策1 コミュニティスクール推進
			細施策2 地域の人材資源の活用
			細施策3 魅力ある学校づくりの充実
細施策4 地域貢献活動への参加			
施策3 家庭教育の支援		細施策1 地域との連携による家庭支援の充実	
		細施策2 地域の教育力の向上	
		重点項目3 自立と共生につながる豊かな心を育む教育活動の充実	細施策1 人権教育・道徳教育の充実
			細施策2 道徳教育の推進
細施策3 長期欠席問題への対応			
施策2 特別支援教育の充実	細施策1 課題の早期発見・早期対応への取組		
	細施策2 インクルーシブ教育の充実		
	細施策3 授業のユニバーサルデザイン化の推進		
施策3 困難な悩みを抱える児童生徒への支援	細施策1 子どもの貧困対策		
	細施策2 外国籍児童生徒への支援		
	施策4 高等学校以上の教育との連携	細施策1 高等学校・高等教育機関連携の推進	
細施策2 奨学金制度の充実			
施策5 健康教育の推進と体力向上		細施策1 地域に根ざしたスポーツ体験活動の推進	
	細施策2 健康・食育の推進		
	細施策3 部活動の活性化		
重点項目4 笑顔で安心して学べる教育環境の整備	施策1 安全・安心の教育	細施策1 防災教育の推進	
		細施策2 安全体制の充実	
編成	教育大綱重点項目	施策	細施策
第2章 教育大綱重点項目（ハード整備版）	重点項目4 笑顔で安心して学べる教育環境の整備（学校施設の長寿命化計画）	施策1 学校施設・設備の充実	細施策1 学校施設の計画的整備の推進
			細施策2 学習環境設備の充実

自立し、共生し、創造性溢れる『岡谷のひまわり』へ

生き抜く力と創造力、知的好奇心溢れる心豊かなひとへ

2 特に重点とする取組

(1) 岡谷スタンダードカリキュラムを柱としたふるさと学習の推進

- ① ものづくりロボットプログラミング授業の実践展開
- ② シルク岡谷を学ぶ学習の展開
- ③ 岡谷に息づく「ひと・もの・こと・こころ」キャリア教育の推進

(2) 図書館の活性化による読書活動・言語活動の充実（学校図書館の機能強化）

- ① 読書センターとしての機能強化
- ② 学習センターとして機能強化
- ③ 情報センターとしての機能強化

(3) 安全・安心の学習環境整備

- ① 児童生徒の危機管理能力の育成強化
- ② 学校施設の積極的な環境整備の推進

3 施策展開の取組内容

(1)【重点項目1】 未来を切り拓く確かな学力の定着

○現状と課題

子ども達の学力向上に向け、学力向上専門官（主任指導主事）及び学力向上アドバイザーを配置し、体制整備の構築を図っています。今後は、学力向上専門官と学力向上アドバイザーを中心に主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けた取り組みやカリキュラムマネジメントの確立を図り、新しい時代に求められる資質・能力を育成し、基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力及び学びに向かう力の醸成を図る必要があります。

○目指す方向性と主な施策展開

施策1 基礎・基本の学力の定着と思考力・判断力・表現力及び学びに向かう力の醸成

□細施策1 学力向上の推進

「チーム岡谷による学力向上推進事業」に基づき、主任指導主事（学力向上専門官）及び学力向上アドバイザーを中心に、学力状況調査や標準学力検査などの結果分析による課題を踏まえ、学校への助言や指導を行い、教育課程、学習指導、生徒指導、教材、学校の組織編制など専門的な支援体制を整備します。

【取組内容】

- ・全小中学校への標準学力検査などの導入を目指します。
- ・主任指導主事及び学力向上アドバイザーによる「全国学力・学習状況調査」及び標準学力検査などの分析結果を活用し、一人ひとりに応じた指導や授業改善に取り組めます。
- ・主任指導主事や学力向上アドバイザーが学力向上推進委員会と連携し、学校のニーズに応じたきめ細かな指導体制により、学習習慣や生活習慣の定着と基礎学力の向上を図ります。

□細施策2 授業改善への取組

社会のあり方を見据えた育成すべき資質・能力として「何を理解しているか、何ができるか」「理解していること、できることをどう使うか」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」の3つの柱を確実に育成するため、新学習指導要領の着実な実施により、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善をするとともに、カリキュラムマネジメントの確立を図ります。

【取組内容】

- ・各教科の見方・考え方に基づいた思考力・判断力・表現力及び学びに向かう力の醸成に努めます。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、知識・技能を活用する力や探究する力の育成に努めます。

- ・新学習指導要領への的確な対応を図ります。

□細施策3 教職員の資質向上

子どもたち一人ひとりの状況に応じた、質の高い教育の提供に向けたきめ細かな指導の充実を図るため、教職員が自らの指導力向上に取り組みます。

教職員が子どもと向き合う時間を確保するため、学校サポート体制の充実を図ります。

【取組内容】

- ・主任指導主事及び学力向上アドバイザーによる学校訪問により学校支援の充実により、指導力の向上を図ります。
- ・教職員が子どもと向き合う時間の確保のため「学校における業務改善方針」を策定し、働き方改革の推進を図ります。

□細施策4 理数教育の充実

ものづくりのまち岡谷を担う人材育成に向け、その基礎・基本となる理数教育の充実を図るため、理科の観察・実験活動に対する外部人材を活用した授業支援や、教職員を対象とした理数教育の指導力向上に向けた特別講師による研修会等を実施し、理数好きな子どもの育成を図ります。

【取組内容】

- ・岡谷市のものづくり・イノベーションを支え、世界をけん引するような科学技術人材の育成に努めます。
- ・外部の人材を活用した特別講師を派遣するなど、授業支援の充実にも努めます。

□細施策5 小中学校の連携・接続・交流

小中一貫教育の目指すべき目的が果たせるよう、小学生が中学校の生活体験をするOEEを中心に、教職員の授業参観、合同職員会議の開催、学力向上に向けた取り組みを行うなど、小中連携・接続・交流の充実を図ります。

【取組内容】

- ・これまでの岡谷小中学びの連携（OEE）を継続し、教職員の交流や授業・部活参観など更なる充実を図ります。
- ・新学習指導要領を見据えた、中学校専科教員による小学校への授業支援の充実を図ります。

□細施策6 幼保小中の連携

幼児期の教育がその後の学力や運動能力に与える影響、また大人になってからの生活への影響を与えることから、幼児期から質の高い教育を提供することの重要性が高まっており、幼保小中の連携した教育活動の充実にも努めます。

【取組内容】

- ・幼児期から中学生期までの成長段階に応じた運動プログラムが実践されるよう、学校、家庭、地域が連携した取り組みを推進します。

- ・各ライフステージの教育が円滑に接続されるよう関係課や関係機関等と連携した活動を推進します。（幼保小中連絡会議・子育て支援関係課連絡会議）

□細施策7 家庭学習への支援

家庭学習の定着は、子どもの主体的や自立性を伸ばし、将来の夢や目標をもって生きる力を育む大切な取り組みであり、学校と家庭が連携し、家庭学習の習慣化を目指します。

【取組内容】

- ・家庭学習の習慣化のための宿題（予習復習）の内容等改善を図ります。
- ・家庭学習の習慣定着を目指し、学校と家庭が連携した取り組みを推進します。

□細施策8 学校図書館の活性化

読解力の向上、言語活動の充実など、子どもの読書活動の重要性を踏まえ、授業における学校図書館の活用拡大を図るとともに、学校図書館の整備充実や市立図書館との連携により、学校図書館の活性化を図ります。

【取組内容】

- ・読書センター、学習センター、情報センターとしての機能強化に努めます。
- ・市立図書館や家庭、地域との連携による読書活動の推進を図ります。
- ・学校図書館の活性化による読書活動・言語活動の充実を図ります。

施策2 グローバル社会に対応する人材の育成

□細施策1 外国語（英語）教育の充実

外国語教育の小学校中学年での導入や高学年での教科化をはじめとし、コミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指し、外国語教育の更なる改善・充実を図る新学習指導要領の着実な実施のための教員研修の充実や外国語指導助手（ALT）の配置等、学校の指導体制を強化します。

国際交流センターや高等学校と連携した授業実践や学校行事についても研修を進めます。

【取組内容】

- ・小学校でのALTを活用した実践的な授業により、児童の英語コミュニケーション能力の向上を図り、中学校へのスムーズな移行を図ります。
- ・英語支援アドバイザーの配置により、外国語学習における小中学校の接続を意識した指導改善や、新学習指導要領実施にむけた教職員研修等を実施します。
- ・国際交流センターや高等学校と連携した取り組みを推進します。

□細施策2 国際理解教育の推進

日本の伝統文化を十分に理解し、そのすばらしさを誇りに思うと同時に、国際化の急速な進展に対応するため、広い視野を持ち異文化を理解するとともに、これを尊重する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていく資質や能力の育成を図ります。

【取組内容】

- ・岡谷、長野県の歴史文化の理解を深めるとともに、日本人としての誇りを持ち、国際的に活躍できる人材の育成に努めます。

施策3 ICTを活用した学習の研究・実践

□細施策1 情報教育の充実

新学習指導要領において、情報活用能力（情報モラル含む。）が学習の基盤となる資質・能力に位置づけられたことを踏まえ、その育成に係るカリキュラムマネジメントを創造し、その普及を図ります。

情報モラルの育成について、指導資料や啓発資料の作成などを通じて推進するとともに、プログラミング教育の推進を目的とした教員の指導力向上を図ります。

【取組内容】

- ・情報教育指導員による教職員を対象とした研修会の開催により、ICTを活用した授業改善や指導力向上を図ります。

□細施策2 学校ICT環境の充実

これからのIoT,AI等の革新的技術が普及する時代を生き抜くためには、情報活用能力が重要視されています。さらに新学習指導要領への対応に伴い、積極的にICT活用されることか想定されるため、学校ICTや教材の計画的な整備充実に努めます。

【取組内容】

- ・学校ICT環境整備計画の策定に努めます。
- ・ICT教材の積極的な活用を図るため、情報教育委員会を中心に研究を進めます。

○目標指標（KPI）

指標の項目	現 状	目 標	備 考
CRT・NRT 検査の結果 (小学校)			
CRT・NRT 検査の結果 (中学校)			
授業がよく分かると答える児童の割合	85.4%		全国学力・学習状況調査
授業がよく分かると答える生徒の割合	74.6%		全国学力・学習状況調査
家で自分で計画を立てて勉強していると答える児童の割合	59.1%		全国学力・学習状況調査
家で自分で計画を立てて勉強していると答える生徒の割合	47.1%		全国学力・学習状況調査
読書が好きと答える児童の割合	80.8%		全国学力・学習状況調査
読書が好きと答える生徒の割合	81.9%		全国学力・学習状況調査

(2)【重点項目2】 地域に根ざしたふるさと学習の推進

○現状と課題

ものづくりに代表される、ふるさと岡谷の様々な地域資源を活かした、岡谷ならではの学習カリキュラムである「岡谷スタンダードカリキュラム」を構築し、各学校での実践につなげるためのシステム作りを進めています。この岡谷スタンダードカリキュラムをベースとしたカリキュラムマネジメントの実施により、岡谷の「ひと・もの・こと・ところ」の良さを実感し、それらの学びが支えとなり、自分らしさを発揮し、主体的に課題を解決できる力を育むことが求められています。

また、市内全小中学校に岡谷版コミュニティスクールが導入され、学校と地域が連携し、魅力と活力ある学校づくりを進めるとともに、チーム学校の実践により学校の総合力を高めながら、地域と共に学校づくりを推進する体制が確立されました。

今後は、各学校のコミュニティスクールをさらに充実発展させ、ものづくりのまち岡谷の特色を活かし、外部人材を活用した教育活動の推進を図るとともに、児童生徒が自ら考え行動し、社会貢献活動や地域の行事等に参加することで地域の一員としての責任感の育成や地域課題を解決する取組が求められています。

○目指す方向性と主な施策展開

施策1 岡谷スタンダードカリキュラムの推進

□細施策1 岡谷の「ひと・もの・こと・ところ」に学ぶふるさと学習の推進

地域資源を活用した岡谷ならではの学習カリキュラムである「岡谷スタンダードカリキュラム」をベースとしたカリキュラムマネジメントの実践により、岡谷の「ひと・もの・こと・ところ」の良さを実感し、それらの学びが支えとなり、自分らしさを発揮し、主体的に課題を解決できる力の育成に努めます。

【取組内容】

- ・地域資源を活用した岡谷ならではの学習カリキュラムの充実に努めます。
- ・岡谷スタンダードカリキュラムをベースとしたカリキュラムマネジメントの推進を図ります。

□細施策2 ものづくり体験学習の充実

ものづくりのまち岡谷の特色を活かした、ロボット製作やプログラミングなどの様々な体験学習の実践を推進します。

専門性を活かした企業や高等学校の人材を活用した授業展開を推進することにより、ふるさと回帰の心を育む教育の推進に努めます。

【取組内容】

- ・ものづくりロボットプログラミング授業の実践展開を推進します。
- ・市内企業や高等学校との連携による授業展開を図ります。

□細施策3 郷土を愛する心の醸成

地域の伝統・文化を学び、伝統行事等に積極的に参画することによりふるさとの良さを再認識し、地域社会の活性化に貢献できる人材の育成に努めます。

【取組内容】

- ・岡谷スタンダードカリキュラムによる地域の歴史文化学習の充実に努めます。

□細施策4 キャリア教育の推進

児童生徒が岡谷スタンダードカリキュラムに位置づけるふるさと岡谷の「ひと・もの・こと・ところ」に学ぶ学習カリキュラムにおいて、それぞれの発達段階に応じた進路選択に対し目的意識を持った学習に取り組み、社会的・職業的自立に必要な能力・態度の育成を図ります。

【取組内容】

- ・工業振興課や市内企業と連携したキャリア教育を推進します。
- ・企業体験活動の充実により達成感や成就感の醸成を図ります。

施策2 地域に開かれた学校づくりの推進

□細施策1 コミュニティスクールの推進

地域住民や地元企業などとの連携により、学校支援活動（放課後の教育活動、土曜日を活用した授業や体験活動、防災防犯の避難訓練等）の実施により、地域との連携・協働体制づくりを推進します。

【取組内容】

- ・全ての学校に学校運営委員会を設置し、地域による学校サポート体制の確立に努めます。
- ・地域と学校を繋ぐ人材の育成を図り、地域との交流活動の充実に努めます。
- ・学校支援ボランティアの充実に努めます。

□細施策2 地域の人材資源の活用

ものづくりのまち岡谷の特徴を活かし、地域や外部人材を活用した幅広い教育活動を推進します。

【取組内容】

- ・学校が必要とする人材のニーズ調査を実施します。
- ・地域の人材発掘及び人材活用登録制度の構築を図ります。

□細施策3 魅力ある学校づくりの充実

各学校で積極的に取り組みを進めている、特色ある総合的な学習の時間への支援の充実ににより、更なる魅力ある学校づくりを推進します。

【取組内容】

- ・各小中学校の特色ある学習に対する支援の充実に努めます。
- ・理数教育の充実に向けた取組に対する支援に努めます。

□細施策4 地域貢献活動への参加

児童生徒が、自ら考え行動し、社会貢献活動や地域の行事に参加することで、社会的資質や行動力を高め、規範意識の醸成を図ります。

【取組内容】

- ・児童生徒が地域の行事等に積極的に参加することで地域貢献意識の定着を図ります。
- ・積極的な学校開放により地域との連携強化に努めます。
- ・社会福祉協議会との連携による福祉教育の推進を図ります。

施策3 家庭教育の支援

□細施策1 地域との連携による家庭支援の充実

学校・家庭・地域が連携協力し、地域住民等の参画により子ども達の安全で安心して活動ができる居場所を確保し、学習支援や様々な体験・交流活動を提供するなど、家庭支援の充実に努めます。

【取組内容】

- ・地区公民館との連携による家庭教育支援活動の充実に努めます。
- ・PTAが主体的に保護者交流の場を提供できるよう支援体制の充実に努めます。

□細施策2 地域の教育力の向上

保護者等への家庭教育に関する情報の提供や、家庭教育支援チームなどの組織体制の整備による相談対応、保護者への学習機会や親子交流行事の企画・提供など全ての保護者が安心して家庭教育が行うことができるよう、地域の教育力の向上に努めます。

【取組内容】

- ・子どもの基本的な生活習慣の確立や生活リズムにつながる活動の展開を、地域との連携より推進します。
- ・家庭教育支援チームの設立に向けた支援を行います。
- ・子育て世代を対象とした親子で学べる学習の場の提供を図ります。

○目標指標（KPI）

指標の項目	現 状	目 標	備 考
将来の夢や希望を持っていると答える児童の割合	85.4%		全国学力・学習状況調査
将来の夢や希望を持っていると答える生徒の割合	71.1%		全国学力・学習状況調査
岡谷スタンダードカリキュラムによる授業実践数			
地域の行事に参加している児童の割合	83.7%		全国学力・学習状況調査
地域の行事に参加している生徒の割合	43.6%		全国学力・学習状況調査
学校ボランティア参加者数			岡谷版コミュニティスクール

(3)【重点項目3】 自立と共生につながる豊かな心を育む教育活動の充実

○現状と課題

子ども総合相談センターを中心に、一人ひとりの子どもの育ちを支えるため、専門職員や関係課とも連携した取り組み行ってきています。センターが発足し8年が経過しますが、家庭環境は益々複雑化し、相談件数も増加のしているため、様々な教育課題や家庭環境等の課題の解決を図るための体制整備が必要となっています。また、生活困窮者の増加や社会・経済的格差の拡大が進むなかで、誰もが必要な教育の機会を得ることができる環境整備が必要となっています。

また、岡谷市と連携し、総合教育会議において平成27年2月に「岡谷市いじめ防止等のための基本方針」を策定し、子ども支援チーム会議を中心に学校・家庭・地域が連携しチーム体制でいじめ防止に取り組んでいます。引き続き、自己肯定感、他者への思いやり、人間関係を築く力などを養うとともに、前向きに挑戦しやり遂げる力の育成が求められております。また、多様化、深刻化する健康課題に対応するため、学校の教育活動全体を通じた体系的な保健体育の充実を図り、加えて食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることにより、たくましく生きるために必要な健康や体力を養うことが必要となっています。

○目指す方向性と主な施策展開

施策1 人権教育・道徳教育の充実

□細施策1 人権教育の推進・いじめ防止対策

児童生徒のそれぞれの発達段階に応じ、各教科、道徳、特別活動等において一人ひとりの人権意識を醸成する取り組みを推進します。

「岡谷市いじめ防止等のための基本方針」に基づき、いじめはどの子、どの学校にも起こりうるという認識のもと、未然防止、早期発見、早期対応を柱に、市及び教育委員会、学校、家庭、地域が連携し「チーム」体制で取り組みます。

【取組内容】

- ・児童生徒自らが、いじめをなくすために取り組んでいる「いじめ根絶子ども会議」の充実を図ります。
- ・いじめや生徒指導上の問題に対し、専門的な職員を含めたチーム体制で学校への助言や支援を実施します。

□細施策2 道徳教育の推進

「特別の教科道徳」の実施により、答えが一つではない道徳的な課題が一人ひとりの児童生徒が自分自身の課題と捉えて向き合う「考え議論する道徳」への転換を図ります。

【取組内容】

- ・考え議論する道徳への転換を図り、児童生徒が自己を見つめ自己の生き方を考える学習を通じて道徳的価値の理解を深めます。

□細施策3 長期欠席問題への対応

子ども総合相談センターを中心に、関係課との連携を強化し、それぞれの立場を生かした相談支援を行い、様々な教育・家庭環境等の課題解決に向け、チーム支援により、子どもの育ちを支えます。

【取組内容】

- ・ソーシャルスキルトレーニングやピア・サポート・プログラムの実践により、子ども同士のコミュニケーション能力の育成を図ります。
- ・子ども総合相談センターのカウンセリング体制の充実を図るとともに、フレンドリー教室や中間教室を活用した学校・学級復帰への援助に努めます。

施策2 特別支援教育の推進

□細施策1 課題の早期発見・早期対応への取組

子ども総合相談センターを中心に、スクールクラスター体制（地域の教育資源の組合せ）のもとで、コーディネーター機能を十分発揮し、通常学級における指導支援や教職員の専門性向上に努めます。また、関係課による子育て支援連絡会議を立上げ、早期から就学後までの一貫した支援、丁寧な就学教育相談、総合的な視点による就学判断に努めます。

【取組内容】

- ・子ども総合相談センターにおける専門性の強化を図ります。
- ・子育て支援関係課連絡会議の充実を図り、各ライフステージにおけるつなぎの強化を図ります。

□細施策2 インクルーシブ教育の充実

これまで、地域の様々な資源を有機的かつ効果的に結びつけ、障害のある子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援体制の構築を図ってきており、この成果を活かし、基礎的環境整備に充実、個に合わせた合理的配慮の提供を行います。

【取組内容】

- ・支援が必要な児童生徒が必要に応じて適切な支援が受けられる連続性のある多様な学びの場の提供に努めます。
- ・支援が必要な児童生徒の教育的ニーズに応じたチーム体制での支援を進めます。

□細施策3 授業のユニバーサルデザイン化の推進

授業づくりや学級経営には、特別支援教育の視点から、ユニバーサルデザイン化を取り入れ、発達障害等のある児童生徒が学びやすい教育環境や指導方法等を工夫改善できるよう、教職員研修や推進体制の充実を図ります。

【取組内容】

- ・特別な支援が必要な児童生徒が安心して学べる環境整備に努めます。
- ・発達障がいのある児童生徒への理解や共生社会の実現に向けた教職員研修の充実を図ります。

施策3 困難な悩みを抱える児童生徒への支援

□細施策1 子どもの貧困対策

日常生活の中で、地域の大人と子どもたちがあたたかなつながりの中で、困難を乗り越えて自立する力を養うため、学習支援、食事提供、悩み相談等の複数の機能・役割を持たせ、家庭機能を補完する子ども居場所づくりを推進します。

【取組内容】

- ・学校、家庭、地域が連携し、家庭機能を補完する学びの場の提供を推進します。
- ・子どもたちが将来自立するための基盤となる学力を身につけられるよう様々な学習機会の提供に努めます。

□細施策2 外国籍児童生徒への支援

近年、日本語指導が必要な外国人児童生徒等が急増し、あわせて児童生徒の状況も多様化しており、個々の児童生徒のニーズに応じたきめ細かな支援が必要となっています。このため教員の基礎的な知識を習得するための研修機会の充実やサポートするため支援員の配置等、支援体制の推進を図ります。

【取組内容】

- ・外国籍児童生徒への教育支援のためのサポートスタッフの配置を検討します。
- ・教員の指導方法等についての研修の充実を図り、資質向上に努めます。
- ・国際交流センターと連携した保護者支援の推進を図ります。

施策4 高等学校以上の教育との連携

口細施策1 高等学校・高等教育機関連携の推進

小中学校における様々な教育活動の中で、地域の高等学校との連携により、学習活動支援、キャリア教育、部活動サポート（合同部活）等、異年齢集団による様々な交流を通じ、児童生徒の個性を伸ばし、優れた才能を早期に発見できるような教育活動の充実を図ります。

【取組内容】

- ・小中学校と高等学校が様々な教育活動の交流や体験を通じて、接続が一層円滑に行われるよう、教職員の連携を含めた取組を推進します。

口細施策2 奨学金制度の充実

経済的な理由により、就学が困難な優れた学生に対し、奨学金を貸与することにより、優秀な人材を育成するとともに、多様なニーズに対応できるよう償還免除なども含め制度の充実を図ります。

【取組内容】

- ・世界を視野に活躍できる優秀な人材を育成するため、給付型奨学金制度の導入検討を進めるとともに、償還免除制度の充実を図ります。

施策5 健康教育の推進と体力向上

口細施策1 地域に根ざしたスポーツ体験活動の推進

地域に根ざした郷土の生活文化であり、スポーツ文化であるスケートを活用し、小学校の体育教科、中学校の部活動に取り入れ、岡谷スタンダードカリキュラムの一つの教材と位置づけ、健康増進、体力向上に加えてふるさと文化の継承を図ります。

【取組内容】

- ・岡谷のスポーツ文化であるスケートを活用した授業の実践により子どもたちの体力向上と文化の継承を図ります。
- ・専門指導員による体力アッププログラムの推進を図ります。
- ・学校体育以外でも多様な運動ニーズに対応できるよう、地域の社会体育活動の充実を図ります。

口細施策2 健康・食育の推進

学習指導要領に基づき、各教科等を通じた食育や自校給食による「生きた教材」である学校給食を活用した実践的な指導を推進し、学校栄養士を中心に、家庭、地域や関係機関との連携により食育の充実を図ります。

【取組内容】

- ・学校における体育活動を通じ、運動の楽しさを実感し、運動が習慣化できる授業づくりを推進します。
- ・子どもたちが望ましい食習慣を身に付け、心身ともに健やかに成長できるよう生きた教材である、学校給食を活用した実践的な食育を推進します。

□細施策3 部活動の活性化

部活動は、学校教育の一環として教育課程と関連付けて取り組まれる重要な教育活動であり、生徒の自主的、自発的な参加により体力向上はもとより、実践的な思考力・判断力を育むものであり、「岡谷市中学校運動部活あり方指針」に基づき、適正な運用を図ります。

生徒数の減少による部活動の減少や、学校規模の縮小による顧問数の減少、教職員の負担増（働き方改革）など、様々な課題を踏まえ、今後、各学校がより充実した部活動の環境整備や教職員の負担軽減が図れるよう、家庭、地域、スポーツ団体等とも連携し、部活動の活性化に取り組みます。

【取組内容】

- ・適正な部活動のあり方を踏まえ、「岡谷市中学校運動部活あり方指針」の見直しを行います。
- ・教職員の負担軽減を図るとともに、生徒の多様なニーズや部員数の減少に対応するため、部活動指導員制度や合同部活動の導入など活性化に向けた取組を推進します。

○目標指標（KPI）

指標の項目	現 状	目 標	備 考
学校へ行くのが楽しいと答える児童の割合	87.1%		全国学力・学習状況調査
学校へ行くのが楽しいと答える生徒の割合	77.9%		全国学力・学習状況調査
子どもは喜んで学校に行っていると答える保護者の割合			全国学力・学習状況調査
朝食を毎日食べていると答える児童の割合	95.4%		全国学力・学習状況調査
朝食を毎日食べていると答える生徒の割合	93.0%		全国学力・学習状況調査
自分に良いところがあると思うと答える児童の割合	79.6%		全国学力・学習状況調査
自分に良いところがあると思うと答える生徒の割合	70.0%		全国学力・学習状況調査
人の役に立つ人間になりたいと思うと答える児童の割合	92.9%		全国学力・学習状況調査
人の役に立つ人間になりたいと思うと答える生徒の割合	91.2%		全国学力・学習状況調査
全国体力・運動能力、運動習慣等調査での体力合計点			スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

(4)【重点項目4】 笑顔で安心して学べる教育環境の整備

○現状と課題

恵まれた自然と共存するため、自然災害に備えた安全・安心の教育環境づくりを推進し、自分の命は自分で守ることができる防災教育の推進が必要となっています。これまで各学校において、様々な災害を想定した避難訓練や危機管理能力の育成や危機管理マニュアルの作成行ってきましたが、近年では、想像を絶する災害、事件、事故が発生しています。今後は、あらゆる危機管理を想定した能力の育成や学校と家庭・地域が連携した安全体制の充実が求められています。また、学校施設も建築後30年以上が経過しているものが多く、劣化度も進んでいることから、施設の長寿命化を見据えた計画的な整備が必要となっています。

○目指す方向性と主な施策展開

施策1 安全・安心の教育

□細施策1 防災教育の推進

災害等に適切に対応する能力の基礎を培うことは、子ども達の生きる力と密接に関連しており、各学校において児童生徒の発達段階に応じ、関連する教科、総合的な学習の時間、特別教科など学校の教育活動全体を通じた防災教育の展開を図ります。

【取組内容】

- ・児童生徒が自らの命は自ら守ることができるよう、災害時等の有事の際の危機回避能力の育成に努めます。
- ・様々な事象を想定した避難訓練や引渡し訓練を実施するとともに、アクションカード等を活用した訓練により、教職員の危機管理や知識の向上に努めます。

□細施策2 安全体制の充実

学校は、災害時における児童生徒や教職員の安全確保に万全を期すため、学校防災計画や危機管理マニュアル等の整備に努めます。また、教育委員会は、学校が避難所となった場合も含め、児童生徒の避難方法、教職員の役割分担等のマニュアル作成や適正な見直しを行うとともに、指導や研修、訓練の徹底を図ります。

【取組内容】

- ・第3次通学路安全対策事業に基づき、計画的な対策を推進します。
- ・様々な事象に対応できるよう学校危機管理マニュアルの見直しを行います。
- ・家庭や地域と連携した登下校等の見守り体制の充実を図ります。

○目標指標 (KPI)

指標の項目	現 状	目 標	備 考
見守りボランティアの登録数			

4 プランの推進体制と進行管理

(1) 推進体制

関係部局との横断的な連携により、実行性のある取組を展開するとともに、国・県、関係機関等との連携協力を図り、着実な推進に努めます。また、学校・保護者・地域、企業などがそれぞれの役割と責任が果たせるよう互いに連携協力を図ります。

(2) 進行管理

毎年度、取組の成果や課題を評価・検証するとともに、その結果を次年度の施策展開に反映していきます。

(3) 計画の見直し

プランの推進にあたっては、岡谷市の財政状況や学校教育をめぐる情勢の変化を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行います。